

平成27年度学校評価実施報告書

次のとおり学校評価を実施しましたので報告します。

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
(1) 学校生活全般を通じて、生徒一人ひとりが学び高めあうことができる教育課程を編成し、豊かな人間性・社会性を育み、バランスの良い人間形成を図る。	(1)①現行教育課程の実施を通じ、生徒一人ひとりのバランスのとれた人間形成と自己実現を図る。 ②思考力・判断力・表現力の基盤となる幅広い教養を身につけることを目指し、「総合的な学習の時間」及び各教科の授業等の場面で読書活動を推進する。	(1)①本校教育課程の主旨を理解した上で、進路を意識した生徒の科目選択のための指導・支援を適切に行うことができたか。 ②全学年の授業を円滑かつ効率的に行うための適切な科目配置、選択帯の設定を行うことができたか。 ③生徒の読書活動を定着させるために、「総合的な学習の時間」や各教科の授業等で、学びの活動に組み込むことができたか。 ④深く多角的に思考を行うことができるように必要な情報・データを検索するスキルを指導することができたか。	(1)①学年と協働し適切な科目配置を行うことができた。また、科目選択調査の時期を多少後ろに下げることや面談の時間を確保することで適切な科目選択を支援した。 ②適切な科目配置・選択帯の設定を行い、授業や生徒会活動の時間を確保することによって、身につけた学力を活用しながら、仲間と協働し目標実現・自己実現に向けた取組が発現し、生徒の豊かな人間性・社会性を養うことにつながった。 ③保健の授業や「総合的な学習の時間」など、44回の授業で図書館を活用し、読書活動を推進した。 ④諸便りを活用して読書活動を啓発したり、蔵書の検索機能を効率化したりしたことで、4月からの9ヶ月間（開館日数165日）で、入館者数7,571人（46人/日）、貸出冊数5,719冊（35冊/日）と前年度比1.5倍と利用頻度を高めることができ、読書活動の際の資料収集やデータを検索するスキルの向上を図った。	(1)①生徒保護者から、科目設定の時期を2学期以降に（現行は1学期末）との声が寄せられるが、開講講座数と教職員の需給との関連もあり、これ以上遅らせるのは難しい。 ②授業確保のための1750分問題に照らし、H29年度からの1単位時間及び授業時間数変更等にもない、新カリキュラムの策定が必須である。 ③図書館の利用回数については、教科により偏りがあつた。また、図書館の利用頻度は昨年度より向上したが、本に触れる機会の少ない生徒がいる現状もある。 ④図書委員の活動やPTAの協力、教職員の努力で図書館が明るく使いやすくなったが、限りあるスペースのため蔵書、設備等のバランスをとるのが困難である。	(保護者) 教育課程の編成にかかわる選択科目の決定時期が早いと感じる。また、3年次においては希望した科目が開講されず、大学受験に向けて受験科目を変更する生徒もあつた。学校側の都合もあるだろうが、将来の進路選択にかかわる具体的な説明の仕方を工夫していただけたとありがたい。読書活動については利用者が増えたとはいえ、今以上の推進を望みたい。バランスの良い人間形成を図るためには、読書活動のみならず教育環境をさらに整備していくことが大切だと思う。 (学校評議員) 選択科目の決定時期が早いという声を毎年のように聞くが、学校側の事情も理解するところではある。夏季休業中の面談をはじめ、生徒と相談をしながら決定に至る経緯を大切にしてほしい。また、読書活動の推進については、読んだ本の紹介をするなどの取組は興味深い。人の成長にとっても進路実現においても読書を有効視してほしい。 教育課程の編成については、理数系の進学者の減少が気になるが、高大一体入試改革等の社会的背景を踏まえても学校側の特色をよく考えながら進めるべきだと考える。学校運営の軸を定めて教育課程を編成し、教育活動にあたってほしい。 (その他) 特になし。	(学校評価) バランスの良い人間形成を図ることを主点とし、本校の特色を生かしながら教育課程をし、定着させた。現状では、選択科目の決定時期が早いという指摘を受けているが、教職員の需給の問題や開講講座の決定時期の問題等があるので、選択科目の決定時期を学年末にまで遅らせることは難しい。したがって、今年度は各学年の「総合的な学習の時間」での進路活動を効果的に実施していくことや選択科目の説明会において進路の具体的な情報提供をおこなった。また、担任との面談などの機会に個々の生徒に応じたキャリア支援に取り組んできた。 読書活動については「総合的な学習の時間」を活用した推薦図書プレゼンテーションや図書館の活動を活性化することで26年度よりも読書に親しむ生徒が増えた。 このような取組・達成状況を踏まえ、大多数の生徒が幅広い教養を身に付けるための支援ができたし、バランスのとれた人間形成を図るよう自己実現を支援することができたと評価する。 (改善方策等) いわゆる1750分の授業数確保の問題に対応して新たな教育課程を検討・編成する組織を立ち上げ、検討する。教科の学習のみならず、学校行事や部活動などの取組から学ぶことや成長することも多いので、今後も「文武両道」の校風を堅持していくため、高大一体入試改革や県立高校改革の流れを踏まえて教育課程の編成・教育活動の充実を図りたいと考える。
(2) 計画的・機能的な学習支援・教育相談・進路支援・生徒会活動支援の体制を築き、個々の生徒の将来設計・進路選択を扶助する。	(1)①生徒の興味・関心、適性・能力についての自己理解及び社会参画への意欲を促し、将来について多角的かつ柔軟に考察し、適切な進路選択が可能になるように支援する。 ②生徒の主体的な活動を支援し、計画性や機能的・合理的な思考、態度を養い、個々の生徒の将来設計、進路選択を扶助する。 ③教育相談体制を充実させることにより、個々の生徒の抱える問題に迅速かつ的確に対応する。	(1)①スタディーサポート、マーク模試等を適切な時期に配置し、その結果分析を行い、生徒の進路指導に生かすことができたか。 ②キャリアハンドブック等を活用しながら、個々の生徒に情報提供・面談・声かけ等の働きかけを行うことができたか。 ③生徒会本部、各委員会の組織運営においての支援体制の見直しを行うことと、活動頻度が少ない委員会の生徒やホームルーム活動との意思疎通を図り、組織運営に関する支援を行うことができたか。 ④各学年に教育相談担当を設け、組織的な教育相談体制を確立し、全職員共通理解を図り、生徒の情報を集約したうえできめ細やかな対応を行うことができたか。	(2)①生徒の学習の進行状況と進路指導のタイミングに配慮し、1年生は1・2学期にスタディーサポート、3学期に外部実力試験を実施した。2年生は各学期に1回外部模擬試験を実施した。3年生は1学期に外部模擬試験を実施した。生徒の学習の成果や課題を把握するとともに、そのデータを面談や授業改善に活用した。 ②1学期にキャリアハンドブックを発行し、保護者に対しては進路説明会を利用して、生徒に対しては「総合的な学習の時間」を利用して進路に取り組む心構えと必要な知識や情報を周知した。 ③ホームルームの活用計画を立て、委員会活動に携わる生徒を支援した。また、部活動においては、部活動の目的や目標を定期的に確認しながら合理的・機能的な活動になるよう指導・支援した。 ④各学年においては、教育相談担当を中心として、個々の生徒の情報交換を密にし、状況に応じてケース会議を開いて組織的な対応を行った。 ⑤教育相談の体制やスクールカウンセラーの来校日等について、クラス掲示物を作成したり、学校ホームページに掲載したりするなどして周知した。	(2)①スタディーサポートや模擬試験等で得られた情報をより効果的に活用する必要がある。 ②進路情報や進路に係る取組が細切れで全体像が見えにくくなる恐れがあるので、本校のキャリア支援教育の全体像を見直し、3年間の歩みの中で様々な進路活動をより効果的でよりわかりやすく配していく必要がある。 ③今年度は、各学年に教育相談コーディネーターを配置できなかったが、教育相談担当を置くことで代替した。自分自身の課題を抱えきれない生徒も少なくないので、教職員の組織力をふまえ、迅速かつ的確な対応の可能性が広がる体制を模索していく。	(保護者) 学校がスタディーサポート等で家庭学習を促したり、進路支援に取り組んだりしているのが良い。しかし、スタディーサポートや外部試験の結果・分析について保護者に見せない生徒がいる。そのことが理由で、保護者の中には進路に関する面談の機会を増やしてほしいという声もある。生徒の実態に応じたきめ細やかな指導を今後もお願いしたい。 行事の運営や生徒会活動について、生徒の主体的な動きが見えるが、学校生活を自ら楽しめる生徒が多くなり、一方で学校に登校しづらくなったり、学業不振になったりする生徒に対するフォローの体制が確立しているが、教育相談の取組についてもう少し情報を発信してもよいと思う。 (学校評議員) 学校に足を運ぶたびに、生徒が意義を感じて活動している様子が見える。学習でも生徒会活動でも頑張る生徒たちの将来設計を扶助していくことに取り組んでいる。進学校としては大学進学ばかりに力を入れがちとなるようなところではあるが、将来的な展望を考えさせる様々な取組を心がけているように思う。また、コミュニケーション能力の養成も期待したい。 教育相談について、具体的な相談内容を知ることはないが、スクールカウンセラー活動やケース会議などの対応について広く周知することが大切である。 (その他) 特になし。	(学校評価) スタディーサポートや模擬試験等で得られた情報を活用し、生徒の学習課題の発見や進路実現に向けた支援を行った。「総合的な学習の時間」等を活用したキャリア支援教育の全体像を明確にしなが一つひとつの取組を実施したが、進路活動の一つひとつが細切れで学習しているようにとらえている生徒もいるようだ。 ホームルームの活用については、生徒組織が年間の取組計画を立案し、学級に浸透させるように支援した。主に学校行事や部活動のサポートをする活動については、安全な活動支援や予算の配分を行うことができた。 人間関係や学業に係る相談を持つ生徒や保護者に対して、教育相談の体制を確立し、スクールカウンセラー業務やケース会議の開催などを通じて支援することができた。 (改善方策等) スタディーサポートや外部模擬試験等の分析会考察した結果を、教職員が情報共有し、生徒・保護者に還元することやその活用法を追究する。 本校のキャリア支援教育の全体像と一つひとつの指導・支援の取組を俯瞰できるように取組目的・取組内容の「見える化」を図る。

<p>(3) 組織的な授業改善に取り組むことや家庭学習の定着に取り組むことで、生徒の思考力・判断力・表現力を育み、確かな学力の向上を図る。</p>	<p>(3) ① 生徒の思考力・判断力・表現力等の諸能力を身につけさせ、確かな学力の向上を図るため、組織的な授業改善に取り組む。 ② 生徒の希望進路の実現を支援するため、平素の学習を補完し、発展させる講習を組織的にを行い、生徒の自律的な学びとその習慣化を支援する。</p>	<p>(3) ① 「生徒による授業評価」及び各種調査を実施し、生徒の実態を把握したうえで、その課題を改善する試みを組織的に行うことができたか。 ② 生徒の現状を把握し、生徒の学力を向上させるための授業改善のテーマを設定し、教科横断的に取り組むことができたか。 ③ 各教科と連携し、多様な生徒のニーズに対応した講習の実施時期・内容について計画し、平日講習・夏期講習、冬期講習の充実を図ることができたか。</p>	<p>(3) ① 前年度中に 27 年度学習指導の年間指導計画を作成し、4 月初めに生徒に提示し、教職員による組織的な授業改善に資する取組と合わせて説明した。 ② 「生徒による授業評価」については、7 月、12 月の 2 回、無記名の調査を実施した。各教科で課題を発見・検証し、授業改善策を講じた研究授業を実施した。 ③ 27 年度は「生徒の強みを伸ばす授業展開の工夫」をテーマに掲げ、6 月の授業見学週間、11 月の研究授業、1 月の公開研究授業を実施し、教科や学年による検証・検討を行った。 ④ 平日講習と夏期・冬期講習について、生徒に早期に提示し、述べ 281 名の受講者を集め開講した。部活動に参加している生徒の学習習慣を考慮し、朝の補習の時間帯を確保することでより多くの生徒の学習を支援することができた。</p>	<p>(3) ① 各 H R 教室に教科の年間指導計画の冊子を常備しているが生徒が読む機会は少ないようである。組織的な授業改善と合わせて今以上に認知、定着を図る必要がある。 ② 一部の生徒に授業評価アンケート調査の結果がその後の授業改善に反映されていないとの意見がある。 ③ 1 月の公開授業については、実施時期の公表が遅れ、授業の参観者数・研究協議の参加者数が少なくなった。次年度は早めの計画設定、公表が必要である。 ④ 講習の設定数については教科によるバラツキがあった。また、長期休業中の講習については、部活動等で出席できない日がある生徒がいた。</p>	<p>(保護者) 生徒にアンケートを実施することはよいが、そのことが生徒にどのようにプラスになり、学びに結びついているのかがよく理解できない。一斉授業形式で難しい点があるかと思うが生徒たちの理解度を確認しながら取組を進めてほしい。 補習や講習については、学業不振の生徒や部活動に入部している生徒には保護者に許可を得て強制参加としてもよいのではないかと。また、参加人数が少ない現状を打開できないのであれば、授業の中で小テストを実施したり、課題を課したりするなど工夫を図ってほしい。</p> <p>(学校評議員) 「生徒による授業評価」や「組織的な授業改善」の取組が、個々の教職員の授業改善や生徒の学力の向上にどの程度結びついているのかわかりづらい。また、教職員が教授スキルを上げていくことや指導すること自体を楽しめているかも確認したい視点である。 「生徒による授業評価」の考察をみると、教科によっては評価が向上しない項目があるので、次年度に向けて検証するとよい。また、こうした取組の中心となる教職員や研究授業を行った教職員が異動となっても、年度を渡って進展するように努めてほしい。</p> <p>(その他) 特になし。</p>	<p>(学校評価) 平成 25 年度より「組織的な授業改善」に取り組んでおり、少しずつではあるが教職員の授業力の向上があると考察している。27 年度は、「本校の生徒の強みを伸ばす授業の展開」というテーマで取り組み、生徒の主体的な取組を引き出すようなアクティブラーニングにも取り組んだ。生徒の意欲や取組に対する反応は個々に多様であり、いかなる授業を展開しても、すべての生徒が納得する・力が付くという結果にはならない難しさがある。そうしたことを理解することでなるべく一人ひとりの生徒に対応するスキルを試行している段階と考えているのでそうした意味から地道な努力の成果は得られたと考える。</p> <p>(改善方策等) 生徒の学力の向上や教職員の授業改善に向けて、各種の調査がどの程度効果を表しているのかわかりやすく検証できるように工夫する。また、授業スキルの向上のために他校の教職員からの視点を得るために設定する公開授業については、来年度 11 月に計画し、校内の研究授業と連動する形で行う。</p>
<p>(4) キャリア教育の体系を明確にし、様々な体験活動を通じて社会生活実践力を育む。</p>	<p>(4) ① 平成 27 年度キャリア教育実践プログラムに基づき、「総合的な学習の時間」、教科指導、学校行事、部活動等の様々な場面でキャリア教育の機会と捉え、生徒一人ひとりが社会生活実践力を獲得することを支援する。</p>	<p>(4) ① 社会人講話等の外部講師による講演会を企画し、生徒が社会の最新情報に直接触れる機会を設けることなど、「総合的な学習の時間」の内容と平素の様々な教育活動を生徒の進路選択とキャリア能力の向上につなげることができたか。 ② 各学校行事において、生徒のキャリア能力の向上という視点で生徒を支援することができたか。</p>	<p>(4) ① 1 学年は、大学生による講演会及び実社会の様々な分野で活躍する社会人による説明会を開催し、進路実現に係る最新情報を提供することができた。また、2 学年は、上級学校の教職員から、大学等で学ぶ学問の領域や将来の展望に係る説明を受けたり、本校の生徒が上級学校を訪問し、学生生活全般を自分自身の目で確かめ、施設・機器に触れる体験をしたりすることで、具体的な進路学習をすすめる動機づけの機会となった。3 学年は、様々な職場で働く社会人の講演を聴き、目指す将来像に向けての取組意欲を高め、具体的な計画・行動へと歩みを進めることにつながった。 ② 平素の学習や「総合的な学習の時間」の機会だけではなく、教育活動の様々な機会をとおして、「キャリア実践プログラム」の主旨や取組について生徒に周知・指導した結果、部活動加入率の向上 (95%) や生徒会活動の活性化につながり、ひいては生徒のコミュニケーション能力の向上につながることができた。</p>	<p>(4) ① 学習面や進路実現に関する取組については、生徒によって早い時期から力を注いでいる者もいるが取組が遅れている者も存在する。 ② 年間行事予定に位置している学校行事や生徒会活動等について、一つひとつの「点」として捉えるのではなく、キャリア能力を向上していくための継続的な取組として捉え、様々な体験の場をとおして進路実現・自己実現に意欲的に取り組む生徒が増えるよう指導・支援を浸透させる必要がある。</p>	<p>(保護者) 様々な進路活動や体験をとおして生徒たちが年々たくましく成長し、進路実績が伸びていることは理解できるが、すべての生徒が大学を希望しているということではないので、「社会生活実践力を育む」という目標に対する評価は実践力がどの程度身についたか否かである。生徒が学習する様々な内容や経験の効果を検証してほしい。</p> <p>(学校評議員) 生活習慣の乱れを抱える生徒が少なく、学習への意欲が比較的高い生徒が多いことから、学習やそれ以外の様々な取組が生徒に定着していることは推察できる。生徒は何事にもまじめに取り組む、お互いを思いやる気持ちも強いと感じる。学習した内容や身についた資質や能力が将来にどのように活かされ、職業観や勤労意識に結びついていくのかを考えさせることが重要だと思う。</p> <p>(その他) 特になし。</p>	<p>(学校評価) ・1 学年は将来への進路の視野を広げるための進路学習や体験を、2 学年は卒業後の具体的な上級学校への進路実現のための学問領域や将来の展望をもつための説明会や体験を、3 学年は希望する進路の見学・説明会を通じて自分の進路課題を克服するための情報収集を行い、時機をとらえた指導・支援を実施することができた。また、「文武両道」を校風とする本校においては、学習や進路活動と、部活動や生徒会行事への取組などで得られる達成感・充実感が相互に作用し、進路実現に係る取組が生徒間で切磋琢磨する体制をつくることのできる強みがある。数値による検証が難しいが、そうしたところに社会生活実践力の育成を感じている。</p> <p>(改善方策等) 一つひとつの取組の何が功を奏し、生徒の資質や能力が身についていくのかを読み取る方策を検討する。 説明会の機会や「進路だより」等を通じて、学校の様々な取組がキャリア支援教育の体系の中でどのような位置づけで展開されているのかを生徒・保護者に丁寧に説明していく。</p>

<p>(5)本校の特色や教育活動を広く情報発信し、保護者・地域との双方向の協働・連携を図る学校づくりを推進する。</p>	<p>(5)①時機に応じた適切な進路情報を発信し、生徒・保護者・地域に対して本校のキャリア教育推進の理解・協働・連携を図る。 ②PTA との双方向の協働・連携をはかり、保護者への情報発信をすすめることで、本校の教育活動が理解され、信頼される学校づくりを推進する。 ③本校の教育活動について広報・情報発信するとともに、学校運営の課題発見に取り組む。</p>	<p>(5)①進路決定のポイント、手続き等の周知を図るため、保護者対象進路説明会の実施や「進路だより」の発行等を通じて、本校の進路支援活動を理解してもらうことができたか。 ②PTA 本部・各委員会と協働・連携を深めて、広報誌等を通じて本校の教育活動・生徒会活動やPTA 活動について発信し、保護者に信頼される学校づくりを推進することができたか。 ③学校説明会の企画、学校見学業務、資料作成を適切に行い、教育活動全般について広く情報発信することができたか。 ④本校の教育活動の分析・評価を行い、教育活動の課題を発見するとともに、学校目標に係る学校評価を実施し、校内組織の取り組みや次年度への課題改善に向けた取組に反映させることができたか。</p>	<p>(5)①各学年の保護者対象の進路説明会でキャリアハンドブックを配布し、説明した。また、「Career Dash」、「進路だより」を定期的に発行し、キャリア支援教育に理解をいただくとともに進路実現に係る情報提供を行った。 ②PTA との連携を図り、ロッカー扉の修理や専門家を招いての通学用自転車の点検活動、校内清掃コンテスト、年度末トイレ清掃などの取組を実施した。 ③PTA 広報委員会と協力して作成した広報紙第一号がPTA 連合会PTA 広報紙コンクールにおいて神奈川新聞社賞を受賞した。 ④学校説明会等の広報活動に来場した人数が、5,775名（8月横浜北地区公私合同相談・説明会：1,838、8月第1回学校説明会：2,017、9月文化祭入学者選抜相談コーナー：67、10月授業・部活動公開：665、11月第2回学校説明会：1,188）であった。また、5月～1月まで実施した学校見学には、568名の地域の方々が訪れた。こうした機会に作成した広報資料やスライドの説明を通じて本校の教育活動について効果的に情報発信できたことが、説明会等の来場者アンケートの結果から考察できた。 ⑤26年度の学校評価アンケートをふまえ、グラウンド及びテニスコートに夜間照明を設置し、安全に配慮した環境整備を行った。 ⑥高大大体改革の背景の中、本校の「育成すべき生徒像」と「身に付けさせたい学力」、「授業時間数の確保」等について根本的な視点で検討する組織を立ち上げ、課題の改善を反映した取組に結びつけた。</p>	<p>(5)①進路にかかわる情報提供のための資料が、キャリアハンドブックの他にも数種類あり、内容が重複する部分がある。 ②PTA 担当者や役員との間での日程調整がかみ合わず、他の行事等とPTA 側の運営スケジュールが重なってしまうことがあった。 ③広報誌については内容が洗練され、活用度も高いので今後もよりよい資料作りを心がけたい。 ④地域からの注目度が高い本校においては、高大大体改革や高校教育改革等の検討に必要な時間を確保し、教職員が学校運営の根本的な課題に取り組む姿勢や本校の学校運営の方向性を共有し、その取組について情報発信する必要がある。 ⑤27年度の学校評価を受けて、28年度の学校目標に係る教育活動の充実を図れるよう計画的・機能的に業務を実践する。</p>	<p>(保護者) (学校評議員) (その他)</p>	<p>(学校評価) ・今年度で開催した広報活動等の説明会に来場した人数が、5,775名（8月横浜北地区公私合同相談・説明会：1,838、8月第1回学校説明会：2,017、9月文化祭入学者選抜相談コーナー：67、10月授業・部活動公開：665、11月第2回学校説明会：1,188）であり、昨年度を上回る数であった。 ・5月～1月まで実施した学校見学には、568名の地域の方々が訪れた。 ・作成した広報資料やスライドをもとに本校の教育活動について計画的・効果的に説明・情報発信した。 ・説明会等の来場者アンケートの結果を考察すると、本校の教育活動や入学者選抜について十分に理解を得られたといえる。 ・年度末に第2回学校評議員会を開催し、今年度の学校運営の評価と今後の課題について意見をいただいた。 ・学校評議員の一員であり、PTA の代表でもあるPTA 会長の尽力で、防災活動をテーマとした広報誌を作成・配布したことで、生徒及び教職員の防災に対する意識をより一層高めることができた。 ・26年度からの引継課題であった校舎内の老朽化に係る課題については、PTA 組織と生徒会・委員会の活動と連携してトイレの修繕や清掃に取り組んだ。 ・26年度の学校評価アンケートを踏まえ、安全に部活動が行えるようにグラウンド及びテニスコートに夜間照明を設置した。 (改善方策等) ・学校評議員の様々な経験や意見を校内の各組織に伝え、課題克服のための情報や手段を共有・検討する。 ・教育改革にまつわる他校の対応や本校に望まれる地域からの期待等を精査し、業務目標に反映する。</p>
<p>(6)いのちを大切にすることを育む心、安全教育、健康教育、防災教育を推進する。事故・不祥事防止に学校全体で取り組み、信頼される学校づくりを推進する。</p>	<p>(6)①学校生活全般を通じて、安全教育や健康教育を行うことにより、いのちを大切にすることを育む。 ②防災教育を推進し、いのちを大切にすることを育むとともに、教育環境を整備して、安全で安心できる学校づくりを推進する。</p>	<p>(6)①各学期に交通安全指導週間を実施し、交通マナーや規範意識の向上を図り、自転車事故をなくすことができたか。 ②学校全体で「学校いじめ防止基本方針」を理解し、いじめの未然防止と早期発見に取り組むことができたか。 ③美化防災委員の活動を指導し、校内の美化を推進すると共に、防災体制をさらに強化し、災害時に生徒の安全が確保できるような環境を整備することができたか。 ④教職員対象の人権研修会を企画・実施することで、教職員の人権意識を高めることができたか。</p>	<p>(6)①学期毎に交通安全指導を実施し、交通安全に対する意識の向上が見られたが、時折、近隣の方から登下校のマナーに関する苦情をいただくことがあった。 ②自転車通学者の学年別通学路の実施が定着し、学校前の四車線道路の事故は減っている。しかし、それ以外の道路での事故が増え、交通事故の減少に至らなかった。 ③生徒向け人権講演会や「生活調査アンケート」等を実施し、自他共に尊重する態度を指導するとともに、生徒の不適切な言動や人間関係について日常的に情報交換する場を設けながら、それぞれの状況に迅速かつ誠実に対応した。 ④美化防災委員で掃除用具の数量点検や再配置を行った。また、2学期に清掃コンテストを行い、美化防災委員が美化清掃の採点基準を作成して点検・採点し、清掃場所ごとの優秀クラスを表彰した。 ⑤年度内に2回の防災訓練（神奈川シェイクアウト頭上防災訓練・避難訓練）を実施した。 ⑥11月に、外部講師による「性の多様性」・「性同一性障害」に関する人権講演会を実施し、教職員一同が多様な性の在り方に関する理解を深め、人権意識を高めることができた。</p>	<p>(6)①各学年10クラス、全校で30クラス規模の高校であり、自転車通学者が多い。事故や苦情のほとんどが自転車通学がらみであるので自転車乗車マナーの向上を中心に交通安全教育の推進が必要である。 ②3学年次の後半の時期には受験勉強等で生活リズムを崩し、規則正しい生活を送ることが難しくなる生徒がいる。 ③安易なSNSの利用が不適切な人間関係をつくりかねない状況を生むことがある。 ④盗難が疑われるような事例が発生している。盗難事例は決して多くはないので、生徒の私物の管理に油断が生じないように指導する。 ⑤清掃用具が古かったり、数量不足があったりすることや防災用具庫の不足といった事態を改善したい。 ⑥毎年開催する教職員対象人権講演会のテーマが似通ったものになっているので、時機に応じた対応を考える。</p>	<p>(保護者) (学校評議員) (その他)</p>	<p>(学校評価) ・学期毎に交通安全指導を実施し、交通安全に対する意識の向上はあると思われるが、時折近隣の方からの苦情をいただくことがある。 ・自転車通学者の学年別通学路については定着し、学校前の4車線道路の事故は減っているものの、それ以外の道路で事故が増え、減らすことができなかった。 ・美化防災委員で、掃除用具の数量点検や再配置を行った。また、2学期に清掃コンテストを行い、美化防災委員が点検・採点をして、優秀なクラスを表彰した。 ・12月に地震防災訓練を実施し、災害時に各教室から生徒が安全に校庭に避難できるように手順を確認した。また、9月に1年生美化防災委員を対象に、図上防災訓練（DIG）を実施して、学校周辺の危険な場所や安全な施設を生徒の目で確認することができた。 ・11月に、外部講師による「性の多様性」・「性同一性障害」に関する人権講演会を実施し、多様な性に関する職員の人権意識を高めることができた。 (改善方策等) ・PTA 役員と、担当教員との連絡を密にして、事前にスケジュールの調整をできる体制をつくれるようにしたい。 ・来年度も、美化防災委員による図上防災訓練（DIG）を実施したい。 ・図上防災訓練（DIG）の用具の数を十分なものにしたい。</p>